

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりを意識しての理念を掲げているが、ほとんどが併設の有料老人ホームと一緒に、地域交流をしている。GH独自でつながりを作るむずかしさがあるが、外に開かれた施設として機会を活かしていきたい。	法人の理念を汲み取りグループホームの理念が作られている。職員は理念をよく理解し、毎日の支援の中で忠実に実行している。来訪者にもわかるように事務所の入口に「理念」を掲げ、ケア会議の時には職員同士で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に近所の方と挨拶したり、公園で小さな子供との交流がある。また、犬の散歩途中に寄ってくださる方も居る。夏祭りに近所の方や小学生が大勢来てくれた。	平成22年開設で、去年は隣接する有料老人ホームと合同で「夏祭り」を開催した。近隣の家庭にチラシを配布したり、交流のある小学生のクラスに声を掛けるなど広報したことで雨降りにもかかわらず小学生、親など50名位の方の参加があった。地域の交流の場となるよう毎年続けたいと考えている。利用者が近くの保育園へ出向き、かわいい子供たちとの交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、民生委員を通じて一人暮らしの高齢者や認知症の介護をされている方に向けて地区の会議などでグループホームの存在と役割の話をする機会をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の有料老人ホームと共催で2ヶ月に一度開催しているが、会議では活動報告などを通してサービスの実際を知ってもらい意見を頂いている。また、参加のご家族からも色々意見をもらいサービス向上に活かしている。	二ヶ月に1回、最終水曜日を開催日と決め、隣接の有料老人ホームと合同で行なっている。グループホーム便りの中でも「運営推進会議」の開催について家族にお知らせし、役員以外の自由参加を呼び掛けている。委員よりの提案や質問等を受けホームからも地域をお願いをするなど活発な意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員の中に市の担当者と包括の担当者がおり、活動を知ってもらっている。また、その都度担当者と話をし実情を知ってもらうようにしている。	市の「あんしん相談員」が2ヶ月に一回派遣されるようになり今年の5月より来訪している。長野市主催の勉強会に管理者・職員が参加し新しい情報や知識・技術などを取り入れている。課題や疑問などがある時はその都度市担当部署に電話したり出向くなど相談を掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はなるべくしないように努めている。外出したい利用者には付き添い、安全面で配慮している。毎月のケア会議で話し合っており、意識を高めあっている。	玄関の施錠は原則行わない。お風呂の日に職員の配置上短時間のみ玄関の施錠を行うことがあり、家族には了承を頂いている。職員は勉強会を通じ身体拘束による弊害を理解し拘束をしない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が人権啓発のビデオを見て勉強会をした。日々のケアの中で見落としや、知らぬ間に虐待をしていないかお互いに確認しあい、毎日の昼礼やケア会議で話しあっている。		

グループホームコスモスプラネット篠ノ井

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設の有料老人ホームの職員と学習会を開いた。利用者の中で成年後見人制度を利用している方もいて、後見人とも話し合う機会が度々あり、その必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に説明をし、疑問点を尋ねて納得のうえで契約をしている。家族や利用者から尋ねられたときはその都度説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して家族の意見や要望を聞くようにしている。また、面会などで来所された時は話せる雰囲気作りに努めている。利用者の要望や意見は日常の会話の中から聞き取るように心がけ、聞き取った事を職員間で共有しながら運営に反映させている。	家族会があり、今年は年初めに集まり家族とホームとの意見交換を行なった。家族のホームへの来訪時に職員が利用者の近況報告をするなど家族と積極的に関わりを持っている。担当職員が利用者の近況を手書きし、また管理者もコメントを記入したホーム便りが家族のもとへ送られている。家族へ「意見・要望・質問・苦情受付用紙」を送付し、返送して頂きサービスの向上に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議ではその都度職員からの意見を聞くようにしている。また機会ある毎に個々の職員から気付きや提案を聞いて反映させるように努めている。	職員の年齢構成が20代から60代の男性職員・女性職員と幅広く、お互いの意見が自由に交わらせる環境となっている。年に一回、自己評価をもとに管理者と主任による個人面談が行われている。月に一回のスタッフ会議も開かれており、日ごろの課題や疑問などの検討の場として利用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一年に一度、自己評価を実施し、個人懇談をして、感じたことや要望などを聞き取り、不満や不安をなくして働きやすい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には可能な限り受講してその後職員間で勉強会をしている。併設の有料老人ホームの職員の指導で介護技術の勉強会もしている。勤務に影響なく研修が受けやすい「現任研修制度」も利用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会で2ヶ月に1度情報交換や研修会に参加し、質の向上に取り組んでいる。同グループ法人内の3グループホームとも毎月の連絡会や機会あるごとに相互訪問して質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	機会ある毎に本人と向き合い、1対1でゆっくりと話をしたり、同じ時間を過ごして関係作りに取り組んでいる。また、できればその機会に生活歴などの聞き取りもしている。ケア会議で夫々得た情報を共有して本人との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、家族との面談で何回か話し合い、不安や要望を聞き、本人と家族の思いの違いを知り、ケアプランの中にも家族の意向として取り入れ、又、面会の時や行事の時に話す機会を作っている。家族の中にはメルアドを交換して連絡を取り合っている方もいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込から本人、家族との面接、ケアマネージャーとの話し合いから情報収集している。本人や家族の思いや状況を確認して必要な支援を見極めてサービスにつなげている。同法人内の有料老人ホームや居宅事業所、コスモスグループの各事業所とも連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で家族のように寄り添って仲間でもいられるように心がけている。職員も人生経験の豊富な利用者から教わることが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、生活記録で本人の様子を家族に知っていただくと共に、事ある毎に家族には電話で様子を話したり、面会時に可能な限り本人の気持ちを代弁して家族に伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴から本人の馴染みの人や関係を知り、面会をお願いしたり、外出時に墓参りや近所の人との交流もお願いしている。必要により職員も同行してできる限りの支援をしている。誕生日に本人のかなえたい希望を聞き取り実現できるように支援している。	利用前からの友人が来訪した時に野菜の差し入れなどを受ける利用者がある。お正月の宿泊帰宅や日帰り帰宅の方が大勢おり、親せきや自宅近所の方との交流を継続している。外出の機会に個人的にお墓参りをする利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの居室を行き来したり、フロア以外のも交流できる場所がある。1,2Fの入居者同士の交流もホームの内外を問わず機会を多くとっており、またコミュニケーションの取りづらい利用者には仲介に入って関わりあえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のほとんどがコスモスグループ内の施設に移動されており、面会に行くなど関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から本人の希望や意向の把握に努めている。会話やつづきの中から聞き取ったり、家族や面会に来られた近所や親戚の方など機会ある毎に情報収集に努めている。	意思表示は殆どの利用者が言葉や仕草等でできる。理念に基づき職員は利用者の声に耳を澄ませ思いを汲み取り、新しい情報を利用者の個人用ファイルに書き加え、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族から聞いた生活歴を参考に近所や親戚の方が面会に来られたりした時に聞き取ったりする。必要により担当だったケアマネジャーから情報収集する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握しそれに合わせたケアをするようにしている。本人の発する言葉や様子で気付いた事をケア記録やケア会議で共有して日々のケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中から本人のニーズを引き出し、家族や本人の意向もくみ取りながら、担当職員と計画作成担当者が中心になってモニタリング、カンファレンスを行い、ケアプランに反映している。	利用者・家族の希望等を聞き、理念に沿ったケアプラン作りに心がけている。3ヶ月に一回の見直しも行っている。スタッフ会議や日々の申し送り時に職員の意見を聞き計画作成担当者が計画を練り、更新されたプランは職員へ伝達され、周知を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子や発言などをありのままケア記録に記入している。気づきをケア会議で取り上げてケアプランへと反映させている。夜間の様子は申し送り簿で翌朝の申し送りの場で日勤者に徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望により、外泊や外出の支援、買物の同行など、必要に応じたニーズに応えるようにしている。また、歯科や専門外来なども状態を知る職員が同行するようにしている。		

グループホームコスモスプラネット篠ノ井

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に包括や区長、民生委員が参加することで関係を作っている。地元に住む職員の協力で地域の情報を知り、可能な限り参加して地域との関係作りに取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関であるクリニックの医師が毎週往診に来て、利用者の健康状態を診ている。必要により家族との話し合いも持っており専門医の紹介へとつなげるなど適切な関係を築いている。	本人や家族からの契約時の依頼により協力医へ変更する方もいるが在宅からのかかりつけ医を継続している方もいる。協力医による定期的な往診があり、24時間体制の訪問看護もあるので利用者・家族は安心して利用できている。受診の付き添いは家族や職員が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	クリニックの看護師が毎週の受診時同行しており利用者の健康状態を把握している。休日・夜間は訪問看護師が24時間対応してくれる。また、併設の有料老人ホームの看護師が急変時は対応してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携でスムーズに入退院ができる関係が出来ている。病院関係者との情報交換にも努めていて、早期の退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化の指針」の説明をし、同意を得ている。利用者の心身の状態も家族に説明しており、事業所の力量を理解してもらった上で家族や利用者が終末期をグループホームで迎えることを希望した時は、医師や双方で十分に話し合い看取りの同意を得ている人もいます。	「重度化の指針」が作成されており、ホーム利用時に家族へ説明をしている。今年の介護保険法改正に伴い家族への説明会を開いた際に「重度化等」についての説明も再度行った。希望される時には家族、医師、ホームの話し合いのもとに決めて行く方向である。現在まで看取りの事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制や急変時の対応について事務所に掲示しており、職員は常に有事に備えられるように心得ている。また、避難訓練時に救急隊から応急処置の質疑応答の機会を得たり、日頃から意識を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間・夜間想定での避難訓練を実施している。有料老人ホームと共同訓練しており、緊急時も連携をとれるように確認しあっている。2階の利用者は階段を使っての避難も訓練時は実施している。	年二回、避難訓練・通報訓練等が行われ、利用者・職員全員が参加し実施されている。防災についての地域協定が結ばれている。訓練当日の昼食に「火を使わずに食べられるメニュー」を出すなど訓練に際し多方面で利用者に関心かけ参加しやすいようにしている。訓練後は反省点などを出し合い次回に活かせるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ同士がお互いに夫々の声かけや介助の仕方を見て気づきあい、指摘しあって適切なケアにつなげている。	職員は名前にさん付けで利用者に声かけている。理念にも盛られており、反する行動や発言をした時には管理者からの注意や定例スタッフ会議で担当職員から言葉遣い等の再確認を促す発言がある。職員は常に理念に沿って利用者の尊厳やプライバシー保護に向けて行動している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけをするように心がけている。複数の選択肢を用意するなどなるべくわかりやすい表現をして自分で決める場面を作るようにしている。あんしん相談員の定期来所、傾聴ボランティアさんの協力ももらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるがあ、散歩や畑仕事、手芸など、居家で過ごす時間など希望を聞きながら、一人ひとりの体調に合わせて個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	市内の美容師が来所してヘアカットしてくれるが、その際本人の好みを聞いてカットしている。毎日化粧する人もいる。衣料品店に出かけて気に入った服を購入する時など同行するなどの支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは利用者と一緒に作るように心がけており、夫々の出来る力を発揮してもらっている。おやきや餃子作りなど、利用者の希望するメニューも取り入れて食事作りの楽しみも演出している。	出来る事を職員が見つげ出し、一緒に準備や片付けをしている。訪問調査時の昼食メニューの餃子の下ごしらえや筍の皮むきは前日に利用者の皆さんで行われたという。各利用者が順番で当番となり、当番の掛け声で食べ始めている。お盆を下げる方や食器を拭く方等、利用者同士お互いに気を使い、相手を思いやる優しさも窺うことができた。献立は栄養士によって作成されているが時々アレンジもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士が立てたものを使っている。食材は旬のものを多く取り入れ、家族や近所からの頂き物の野菜も多い。一人ひとりの体調、体重管理をし、適した量を見極めて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に全利用者の口腔ケアを実施している。歯茎のマッサージや舌苔の除去をし、口腔内の衛生を保ち、健康状態を保てるように努めている。夜間入歯を預かり、洗浄剤で消毒している。		

グループホームコスモスプラネット篠ノ井

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を使い、一人ひとりの排泄の様子をチェックして、時間でトイレ誘導をして個別に支援して、失敗を減らし、自立を促すようにしている。	排泄チェック表を作成し、声掛けでトイレでの排泄を行っている。布パンツ、リハビリパンツ、オムツ等、各利用者に合わせた介護用品での対応を取っている。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は排便が不規則だと体調も精神面も大きな影響が出ることを理解している。毎日朝夕の運動、散歩、食事面でも食物繊維の多い野菜を取り入れたメニューの食事や乳製品を毎日摂取するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は曜日を指定して行っている。大型浴槽なので、仲の良い人同士ゆっくり入ってもらうように配慮している。車椅子の利用者もあり、二人掛りで浴槽に入ってもらうように関わっている。	大きな浴槽内には滑り止めマットを敷くなど安全に配慮し、気の合った人同士、複数で入ることが出来る。車イスの方も職員二人介助で入浴している。昨年までお風呂の窓の外は田んぼだったので夏場などは窓を開け放しても平気だったが今年はすだれを掛けその風情も楽しんでいる。菖蒲湯、ゆず湯など季節のお風呂を楽しんだり、入浴剤なども使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩やレクリエーションなどで過ごしてもらい、昼寝も休める人には休んでもらうようにしている。夜はTVを見て過ごされ、寝たいときに休んでもらうが、寝れない時は温かい飲み物など提供して穏やかに寝付けるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者一人ひとりの医療情報から内服薬の内容を理解している。服薬もその人の様子により見守りか介助かを見極めて支援し、症状の変化があったら申し送りや伝達し、必要により受診につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵手紙教室が毎月あり、季節の花を農家の方の協力でフラワーアレンジメント教室の開催もしている。おやき作りの得意な利用者を中心に作る場面がある。料理、裁縫、編み物、塗り絵など得意分野を活かした活躍の場面があり、家族やボランティアさんが支えてくれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調に合わせて外に出る機会をなるべく多くとる様にしている。毎日の散歩や天気の良い時の庭先での昼食やティータイム、夕涼みは喜ばれている。 外出は大好きなので、車が手配できれば1,2階全員で出掛けることもある。	利用者の身体の負担にならないように配慮しながら、暑すぎず、寒すぎずの最適な日や時間帯にホーム界隈を散歩している。最近では身体機能の低下により2組くらいに分け、少人数の交代制で出かけている。お昼寝時間帯に寝ないでリビングにいる利用者と共に食料品の買い出しに出掛けることもある。昨年乗用ワゴン車を購入し、ドライブがてらの外出に利用している。	

グループホームコスモスプラネット篠ノ井

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に小遣いとしてお金を預かり、出納簿で管理している。トラブル防止のために職員が管理しているが、買物や外来受診など職員も同行して出来る人にはレジでの支払いもしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望で電話を掛けたい時は取次ぎをしている。手紙は必要により代筆することもあり、ポストまで同行して自ら投函してもらったり、本人の意欲につながるように積極的に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは南向きに大きく開放されていて日当たりが良く明るい。冬は暖炉のモニュメントがあり温かそうな演出をしている。テーブルには季節の花があり、玄関横の花壇にも花が植えられていて、利用者が水くれなどしてくれる。外出や行事の時の写真を大きく印刷して飾っており、利用者に喜ばれている。	リビングは自然の風が通り抜けるような造りになっていて明るく、気持ちの良い空間となっている。利用者が選択できる空間が多く見受けられる。食卓には季節の花が飾られ、リビングのボードには利用者のスナップ写真が張り出され、居室入口にも表札とは別に利用者の名前が書かれた色紙が掲げられるなど、常に自分のいる場所が理解できる造りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア以外にも利用者が一人で過ごせる場所があり、利用者同士がおしゃべりしている時はお茶を提供したりして、家に居る時と同じような環境を作るように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの物等を持ってきてもらうことの説明をしている。居室に家族の写真を貼ったり、配偶者の位牌や写真を置く人もいる。自分の部屋として落ち着く場所の工夫をしている。	居室には収納スペースがあり、使わないものが片付けられ収められている。備え付けのベッドも置かれている。壁や飾り棚には行事などに撮影された写真や家族からのお祝いのカードが沢山飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に名前が貼ってあったり、トイレや浴室の案内もわかりやすく表示している。一人ひとり持つ力を見極めて必要に応じて物の配置や座席の位置を変えている。		